

研究テーマ

- ・臨床栄養学教育に関する研究
- ・生活習慣病の療養支援に関する研究
- ・病院・施設・在宅におけるシームレスな栄養食事療法に関する研究



研究室の紹介

当研究室では、病院や高齢者福祉施設の患者や利用者のみならず、在宅療養者に対してもつぎ目のない栄養管理をするために、調査票や測定器を用いた基礎的検討や、新たなツールの開発をしています。また、管理栄養士養成における臨床栄養学分野の発展のため、新たな教育法の開発に取り組んでいます。

主な担当講義科目

応用栄養学特論/演習
 地域保健福祉学演習

大学院進学を希望する方へひと言

臨床栄養の現場に役立つ、新たな知見の発見や、新たなツールの開発をしたいと考えている方、その想いを、科学的根拠のあるものにしてみませんか。

最近の研究紹介

高齢の方は、糖尿病になりやすくなります。まず、高齢者は若年者に比べて、体脂肪率が高くなる傾向があります(図1)。すると、血糖を下げるホルモンであるインスリンが効きにくくなります(図1)。一方で、加齢により、インスリン分泌も低下します(図1)。これらが複合することで、血糖が高めになり、糖尿病へつながりやすくなります(図1)。

糖尿病の方の食事療法は、食事の量を抑えるというイメージはないでしょうか。確かに中年までの方であれば、エネルギーを制限して、適切な体重に減量することが重視されますが、高齢の方の場合には、漫然と食事量を減らしていると、低栄養につながる可能性があります(図1)。

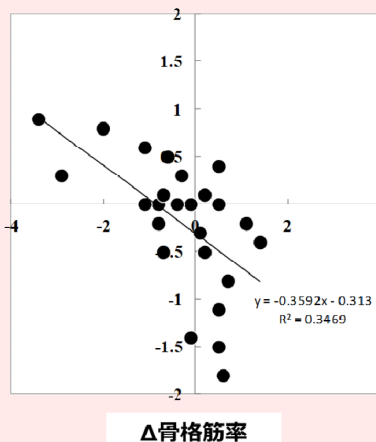


図2. HbA1cと骨格筋率の関連性

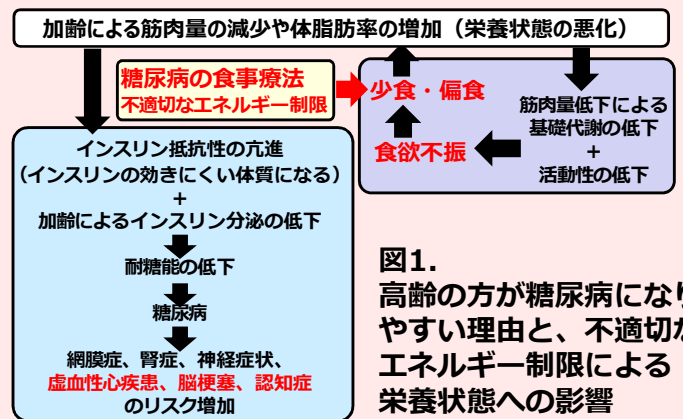


図1. 高齢の方が糖尿病になりやすい理由と、不適切なエネルギー制限による栄養状態への影響

これに関連し、私達は、糖尿病の方の1年間の治療において、体重に対する骨格筋の割合(骨格筋率)を維持しながら治療した人の方が、糖尿病に関する検査値(HbA1c)が良くなっていたことを報告しました(図2)。さらに、栄養に関しては、動物性たんぱく質($\beta=0.504, p=0.009$)やビタミンD($\beta=0.527, p=0.036$)の摂取量が骨格筋率と、水溶性食物繊維($\beta=-0.644, p=0.001$)がHbA1cと強い関連性を示していました。

【論文】 Skeletal Muscle Mass Ratio as an Index for Sarcopenia in Patients With Type 2 Diabetes. Topics in Clinical Nutrition . 34.209-217.2019.7

これまでの研究

- 栄養管理プロセスにおける栄養診断の実施状況と実施につながる支援の検討. 栄養-Trends of Nutrition-35(2).2020.6
- 摂食嚥下障害者の在宅移行時における管理栄養士又は栄養士による食事指導に関する調査. 栄養学雑誌 74(1) 4-12.2016. 2